

令和6年度 研究研修事業報告

1 教職員研修及び研究事業運営の基本方針

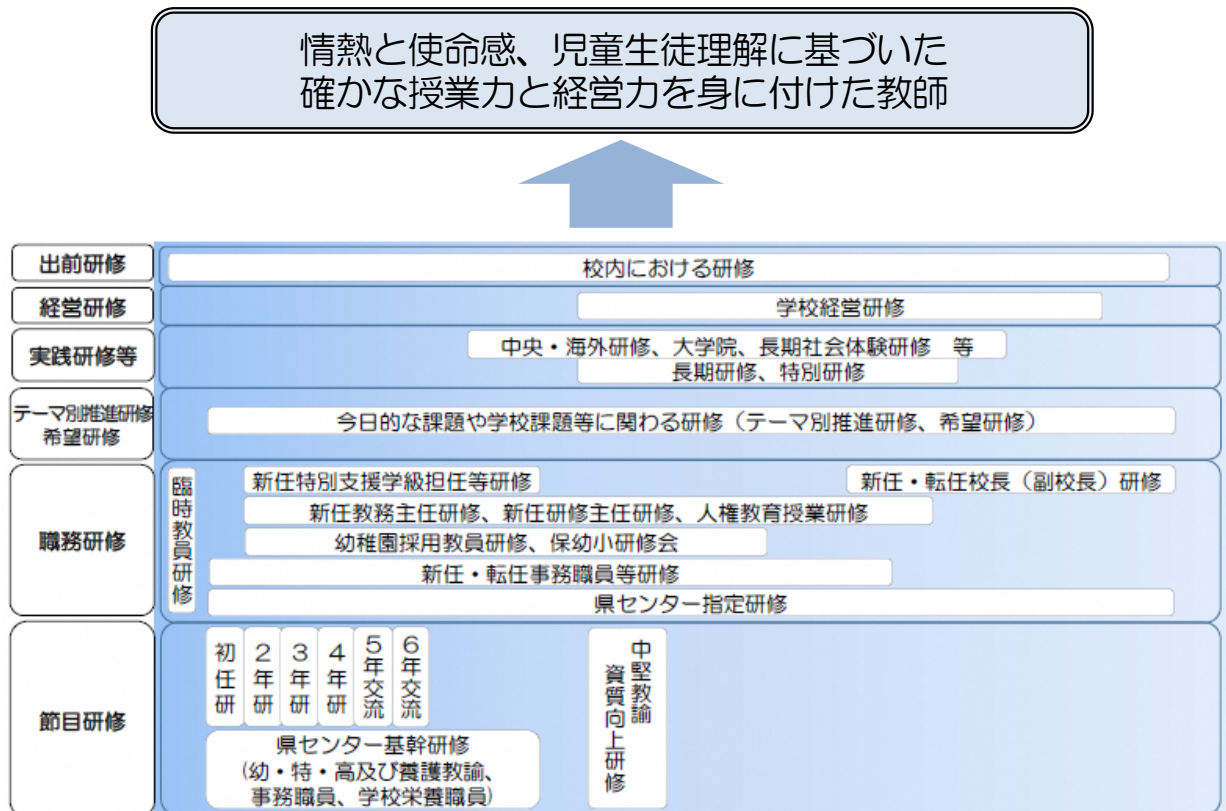
- 目指す教師像を「情熱と使命感、児童生徒理解に基づいた確かな授業力と経営力を身に付けた教師」とし、計画的な教職員の人材育成を目指す研修、研究を行う。
- 市教委内の各課・係や国、県の教育機関、大学等と連携し、それぞれが有する教育資源を活用しながら、事業の円滑かつ効果的な運営を行う。

2 教職員研修に関すること

(1) 基本的な考え方

学校文化の創造を支える「情熱と使命感、児童生徒理解に基づいた確かな授業力と経営力を身に付けた教師」の育成を目指し、実践的な指導力の向上を図るため、一人一人の経験や職務等の教職員のキャリア段階に応じた研修を実施する。

また、研修参加者の振り返りやアンケート、市教委内の各係からの情報を基に、参加者の立場や時期等に応じた研修内容の精選と参加形態の工夫を通して、研修の更なる充実を図る。



教職員のライフステージに応じた教職員研修

(2) 具体的な研修講座の設定

グループ	研修区分	研修名	実施回数 (参加人数)	令和6年度の取組 及び公開講座講師等
指定 研修	節目研修	○小・中学校 初任者研修	14回 (657人)	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修では、全ての初任者の勤務校に訪問した。 ・必須8回と選択2回
		○小・中学校 2年経験者研修	5回 (210人)	
		○小・中学校 3年経験者研修	6回 (210人)	
		○小・中学校 4年経験者研修	4回 (130人)	
		○小・中学校 5年経験者交流会	2回 (60人)	
		○小・中学校 6年経験者交流会	2回 (62人)	
○小・中学校中堅教諭資質向上研修	10回 (521人)			
職務研修	○新任・転任校長(副校長)研修 ○新任教務主任研修 ○新任研修主任研修 ○新任・転任事務職員等研修 ○人権教育授業研修 ○新任特別支援学級担任等研修 ○保幼小研修会 ○臨時教員研修	○新任・転任校長(副校長)研修	1回 (23人)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育授業研修は、荒子小学校を会場に実施した。
		○新任教務主任研修	2回 (32人)	
		○新任研修主任研修	3回 (85人)	
		○新任・転任事務職員等研修	2回 (19人)	
		○人権教育授業研修	1回 (97人)	
		○新任特別支援学級担任等研修	3回 (117人)	
○保幼小研修会	1回 (46人)			
○臨時教員研修	1回 (15人)			
経営研修	○学校経営研修Ⅰ ○学校経営研修Ⅱ	○学校経営研修Ⅰ	1回 (55人)	
		○学校経営研修Ⅱ	1回 (87人)	
テーマ別 推進研修	○外国語授業力向上研修 ○小学校プログラミング教育に関する研修 ○ICT 授業づくり研修 ○「考え、議論する道徳」の授業づくり研修 ○人権教育研修 ○教育相談研修	○外国語授業力向上研修	1回 (21人)	
		○小学校プログラミング教育に関する研修	1回 (45人)	
		○ICT 授業づくり研修	2回 (180人)	
		○「考え、議論する道徳」の授業づくり研修	1回 (67人)	
		○人権教育研修	1回 (67人)	
○教育相談研修	14回 (704人)			
研究成果 発表会	○前橋長期研修・前橋特別研修 研究成果発表会	1回 (127人)	<ul style="list-style-type: none"> ・集合とオンライン同時開催 	
希望 研修	希望研修	○臨時教員研修 (希望)	22回 (10人)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時教員のためのサポート研修では、学校の要望や臨時教員の課題に応じて、学級経営や授業づくりについて講義をしたり、授業を参観し、指導・助言をしたりした。
		○臨時教員のためのサポート研修	4回 (4人)	
公開講座	○つながるICTひろば ○ひろがる道徳ひろば	○つながるICTひろば	3回 (4人)	<ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人ハレルワ 間々田久渚 代表 明星大学 小貫 悟 教授 総合初等教育研究所 北 俊夫 参与
		○ひろがる道徳ひろば	3回 (15人)	
		○学校における性の多様性と人権	1回 (5人)	
公開講座	○多様な学び方が生きる授業 ～特別支援教育の視点を取り入れて～ ○授業に生きる評価 ～指導と評価の一体化～	○多様な学び方が生きる授業 ～特別支援教育の視点を取り入れて～	1回 (23人)	
		○授業に生きる評価 ～指導と評価の一体化～	1回 (32人)	

公開講座	○学び合う授業研究をどうつくるか	1回(28人)	慶応義塾大学 佐久間重紀 教授
	○情報社会に主体的に参画する 態度を育む指導	1回(81人)	静岡大学 塩田 真吾 准教授
	○非認知能力の育て方	1回(114人)	群馬大学大学院 大島みずき 准教授
	○知っておきたい いじめ問題最新動向	1回(12人)	群馬大学 吉田 浩之 教授
	○深い学びの実現と ICT 活用	1回(99人)	茨城大学 小林 祐紀 准教授
	○よりよく生きる力を育む学級活動の 授業づくり	1回(97人)	帝京大学 安部 恭子 教授
	○話す力を育成する中学校外国語科の 学習指導の工夫	1回(28人)	文部科学省 入之内昌徳 教科調査官
	○キャリア教育の理解と推進	1回(4人)	東北福祉大学 長田 徹 教授
	○さらなる学習指導の改善・充実に向けて (算数・数学) ～全国学力・学習状況調査結果を生かした授業づくり～	1回(72人)	国立教育政策研究所 直海 知子 学力調査官
	○さらなる学習指導の改善・充実に向けて (国語) ～全国学力・学習状況調査結果を生かした授業づくり～	1回(75人)	国立教育政策研究所 平山 道大 学力調査官
○主体的・対話的で深い学びの実現に向けて ～自己調整を促す授業づくりの実際～	1回(36人)	桃山学院教育大学 木村 明憲 准教授	
出前研修	○授業づくりサポート ○研修運営サポート (生活科・家庭科・道徳科・総合的な学習の時間・人権教育・授業改善等)	10回(132人)	・校内研修のテーマに沿った授業づくりや研修運営サポートに関わる講義や演習、個別の相談を実施した。

[成果]

- 各研修において、県の育成指標を基に、キャリア段階に応じて求められる資質・能力や職務に応じて求められる能力の育成に向け、講義だけでなく演習等やグループ協議、報告会等を行うなど、内容を工夫しながら実施することができた。
- 情報活用能力や非認知能力の育成、自己調整、性の多様性、外国につながるのある子供の教育など、多様化する課題に応じた内容を取り入れ、各研修の充実を図ることができた。また、公開講座では、外部から講師を招聘し、より専門的な立場から具体的な指導方法についての講義や先進的な取組の事例紹介等を行うことができた。

[課題]

- 各研修講座において、今日的な課題に対応したり、学校での実践につなげたりできるような研修内容になるよう、引き続き必要な支援や方策等を探っていく必要がある。

3 教育研究員に関すること

(1) 前橋長期研修

研究領域	研究主題	研究員
小学校 国語科	作品を読み、味わったことを 自分の言葉で表現する児童の育成	前橋市立桃川小学校 山口達郎 教諭
小学校 図画工作科	図画工作科において 自分にとっての意味や価値をつくりだす児童の育成	前橋市立原小学校 坂本明紀 教諭
小学校 教育の情報化	児童の自己調整を促す自由進度学習の取組	前橋市立時沢小学校 関口温子 教諭

〈研究に関わる主な日程〉

〈学校経営に関する主な講義・演習〉

月 日	日 程	内 容
4月 1日	研究員命令書交付	[課題研修] ・まえばし学校教育充実指針の項目を中心とし、教育活動の概要を経営的に捉える。
5月 15日	主題検討会	[事例研修] ・学校危機管理など事例を基に、経営的視点から考える。
7月 1日	研究計画検討会	[伝える研修] ・校務分掌事項について、経営的視点から再構想し、実践を視野に入れた提案内容を考える。
7月 31日	実践検討会	[深める研修] ・研修内容から自己課題を選択し、学校における実施計画を作成する。
8月	模擬授業	[プラス研修] ・総合教育プラザ館内の他課の係の業務内容について、聴き取りを行う。
9月～ 11月	各置籍校での実践	
11月 25日	執筆検討会	
12月 18日	草案検討会	
1月 16日	発表資料検討会	
1月 30日	研究成果発表会	
3月 31日	研修修了	

[成果]

- 実践研究では、本市の教育課題と自己の課題に基づき、年間を通して研究に専念することができた。国語科では「自分との対話と他者との対話の往還」について、図画工作科では「造形活動のプロセスを可視化するデジタルポートフォリオ『ひらめきリンク』の活用」について、教育の情報化では「クラウドをベースとした『単元マップ』と『学習カード』の活用」について研究した。主に市内の教職員を対象に、研究成果発表会を集合とオンラインの同時開催で行った。研究の概要や発表動画をまえばしGIGAサポートサイトに掲載し、研究の成果を幅広く伝えることができた。
- 経営研修では、今日的な教育課題やまえばし学校教育充実指針等を題材とし、課題の的確な把握、情報の収集、実施計画の立案、提案などについて、実効性のある研修を実施することができた。また、特別研修研究員との合同研修では、ファシリテーターとしての役割を務めるとともに、研究員同士のつながりを深め、高め合う関係を構築することができた。学校を俯瞰して見ることで、学校経営に対する視野を広げることができた。
- 群馬大学教職大学院の集中講義に参加し、教育実践を対象とする研究の方法について学んだり、高崎市長期研修との合同研修を充実させたりしたことで、教員としての専門性をより高めることができた。

[課題]

- 研究員の研究成果を学校現場に還元できるよう、現場に根差した研究、提案性のある研究を進めていく。

(2) 前橋特別研修

研究領域	研究主題	研究員
小学校 音楽科	鑑賞領域において、自分の思いや考えを生かして 聴き深めることができる児童の育成	前橋市立上川淵小学校 岡田麻未 教諭
小学校 体育科	主体的な学びを実現する小学校体育科の授業づくり	前橋市立新田小学校 八高陽亮 教諭
小学校 図画工作科	図画工作科において、表したいことの実現に向け、 こだわりをもちながら表現する児童の育成	前橋市立細井小学校 渡邊彩 教諭
中学校 特別の教科 道徳	視野を広げ、生き方についての考えを 深めることができる生徒の育成	前橋市立第一中学校 芹澤直人 教諭
中学校 教育の情報化	教員の ICT 活用指導力の向上に向けた体制づくり	前橋市立箱田中学校 鷺頭生治 教諭

〈研究に関わる主な日程〉

月 日	日 程
4月11日	入所式、オリエンテーション
5月～6月	授業研究Ⅰ*勤務校での実践
6月20日	主題検討会
8月2日	研究員協議
8月22日	実践検討会
9月19日	授業研究Ⅱ*勤務校での実践 (研究授業、授業研究会)
9月26日	
10月3日	
11月14日	草案検討会①
11月21日	草案検討会②
1月30日	研究成果発表会
2月27日	修了式

〈学校経営に関する主な講義・演習〉

内 容
<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織を生かす中堅教員の役割 ・学校における特別支援教育 ・事例研修（長期研修研究員との合同研修） ・いじめ防止と自殺予防に関する理解 ・キャリア教育の在り方

〔成果〕

- 研究員の課題を基に、学校と連携しながら、実践的な教育研究を進めることができた。
- 研究員間での演習・協議を充実させたことで、相互の活発な意見交換が促進された。また、学校経営に関する演習を通じて、中堅教員として視野を広げる機会となった。
- 研究成果発表会では、集合した参加者にも、オンラインでの参加者にも、一年間の実践と研究の成果を伝えることができた。さらに、当日参加できなかった教員や校内研修で活用できるようにするために、研究の概要や発表動画をまえばし GIGA サポートサイトに掲載し、研究の成果を幅広く伝えることができた。

〔課題〕

- 研究員が感じている課題や解決したいことを基に、教職員のニーズを把握したり、学校との連携を図ったりしながら、より一層学校課題を反映した研究を進めていく。
- 人材育成の視点を重視し、研修内容を精選するとともに、研修方法の工夫を進め、更なる充実と効率化を図っていく必要がある。

4 その他の業務に関すること

(1) 人権教育事業に関すること

- ・小・中学校6年経験者交流会（5/31） 講義「学校における性の多様性と人権」
講師 一般社団法人ハレルワ 間々田 久渚 代表
- ・小・中学校中堅教諭資質向上研修（8/1） 講義「差別の現実から学ぶ」
講師 生涯学習課 社会教育係 指導主事
- ・人権教育研修（8/27） 講義「人権に関する重要課題の取組」
講師 学校教育課 教育研修係 指導主事
- ・初任者研修（10/8） 講義「学校における人権教育の実際」
講師 学校教育課 教育研修係 指導主事
- ・人権教育授業研修（11/22）
特別の教科 道徳「つくればいいでしょ」〔A - (4)個性の伸長〕
指導者 荒子小学校 持田 莉 玖 教諭
特別の教科 道徳「手品師」〔A - (2)正直、誠実〕
指導者 荒子小学校 熊谷 月 乃 教諭
- ・人権教育推進状況調査 2月上旬実施

〔成果〕

- 初任者研修を始めとする節目研修において、いじめ・児童虐待など子どもたちに関すること、同和問題、性的少数者の人たちといった人権重要課題に関わる講義を実施した。人権教育研修では、「教職員の人権感覚チェックリスト」を活用して参加者に振り返ってもらい、その感想を参加者同士で交流する場面を設けた。その結果、実践につなげていこうとする意欲的な感想が多く寄せられた。
- 人権教育授業研修では、荒子小学校において道徳科の公開授業を行い、授業研究会では人権教育の視点から協議したり、各学校・園の人権教育の取組等についての情報交換を行ったりした。各学校・園の人権教育主任の参加により、市内全体の人権教育の推進に向けた貴重な機会となった。
- 各学校・園での人権教育の充実を図るために、毎月の校長会議において、人権教育教材（DVD）の情報提供を行った。人権週間や人権集中学習に合わせた人権教育教材（DVD）の貸出希望が多くあり、有効に活用してもらうことができた。

〔課題〕

- 今後も、人権教育に関する研修内容や実際の授業を参観し協議したり各学校・園の取組を共有したりした内容を各学校・園で伝達していただくとともに、人権教育の視点を大切にされた教育活動の見直し・改善を図ることができるよう働きかけていく必要がある。

(2) 学校評価事業に関すること

- ・学校評価システム運用に係る実務研修（6/19、7/5、11/15）
- ・新任教務主任研修（8/6）「学校運営への学校評価の活かし方」

〔成果〕

- 学校評価システム運用に関する動画資料やマニュアル等の各種資料をGoogleドライブ上に掲載し、各学校の学校評価担当が状況に応じて、随時確認できる環境を整えることができた。
- まえばし学校教育充実指針に基づく共通項目の他に、独自項目を設定した学校は6校あり、実務研修等で個別に支援を行ったことで、滞りなく運用を行うことができた。
- 来年度から運用となる新学校評価システムの運用に向けて、準備を進めることができた。

〔課題〕

- 各学校が前年度の学校評価結果を基に設定した重点項目を意識して組織的・継続的に学校運営の改善を図ることができるよう、継続して研修等の機会で周知を図る必要がある。

(3) 研究に関わる資料の収集・整理

令和6年度に前橋長期研修、前橋特別研修で実践した実践に関する資料を収集・整理し公開した。

〔成果〕

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点や「前橋市各教科等指導の努力点」に根差して授業改善に取り組んだ実践に関する学習指導案をC4thの書庫に校種別に整理して保存し、市内への情報の共有を図った。
- 長期研修及び特別研修の研究に関わる資料（概要版、報告書、学習指導案、授業実践の資料等）を、まえばしGIGAサポートサイトに掲載し、市内への情報の共有を図った。併せて、前橋市のホームページにも概要版及び報告書を掲載することで、市外への情報発信を行った。

〔課題〕

- 今年度収集した資料を、今後、校内研修や研究の資料として活用できるよう、各種研修会で紹介するなど、さらなる周知を図る必要がある。

(4) 教育研究所連盟関係事業

【群馬県教育研究所連盟に関すること】

- ・令和6年度 春季研修会 5/29 オンライン開催
- ・令和6年度 冬季研修会 2/7 オンライン開催
- 発表者 荒牧小学校 榑 澤 裕 美 教諭
研究発表 「小学校道徳科において自己の変容や成長に気付く児童の育成」
- ・令和6年度 デジタル連盟双書 原稿執筆
- 執筆者 令和5年度 前橋長期研修研究員・前橋特別研修研究員

令和6年度 学校評価アンケートの結果について

学校教育課 教育研修係

令和6年度の各小・中学校の学校評価アンケートの結果を集計し、本市全体の傾向をまとめました。

アンケート項目は、「まえばし学校教育充実指針」の共通項目（33項目）に対応しています。

表【令和6年度 教職員・保護者ニーズ度、児童・生徒実現度 共通項目 結果一覧】

柱	重点項目	番号	評価項目 (各項目は充実指針の各内容と対応)	小学校			中学校		
				教職員	保護者	児童	教職員	保護者	生徒
				ニーズ度	実現度	ニーズ度	実現度		
I 学校力を高める 学校経営	【1】一人一人がチームの一員として参画する学校づくりの推進	1	充実指針を生かした学校課題の解決に向けた取組の推進	16.8			17.4		
		2	実効性の高い学校評価と学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実践	17.1	16.2		17.7	16.8	
		3	学校課題の解決に向けたチーム学校としての指導体制の構築と取組の推進	17.2			17.8		
	【2】学校間の連携と開かれた学校づくりの推進	4	保幼小中のつながりを大切にした教育活動の推進	17.4			20.7		
		5	保護者や地域住民との協働による学校運営の仕組みづくりの推進	15.9	15.1		17.7	15.8	
		6	PTAや地域の組織を生かした教育活動の推進	15.1	13.5		15.9	14.0	
		7	地域の行事への参加や交流活動の推進	15.4	15.3	4.9	15.4	15.0	4.0
	【3】ニーズに応じた校内体制づくりの工夫	8	一人一人を大切に特別支援教育の充実	16.8	18.6		17.6	20.2	
		9	組織的な生徒指導の充実	16.3	20.5	6.1	17.0	21.8	5.6
	【4】教職員の資質・能力の向上	10	実践的な指導力・経営力を高める校外の研修機会の活用	16.8			17.4		
		11	指導力の向上を目指した校内の研修の充実	14.9			15.9		
		12	学年学級経営案・教科経営案・自己申告書等を生かした自己研修の推進	16			16.8		
	【5】安全・安心な学校づくりの徹底	13	学校の安全管理・環境衛生管理体制の充実	15.6	17.6		16.9	17.6	
		14	関係諸機関と連携した危機管理体制の充実	16	15.6	6.2	16.6	16.6	5.7
II 魅力あふれる 教育活動	【6】学び続ける力の育成	15	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の推進	18.9	17.4	5.4	17.6	18.0	5.2
		16	学びの質を高めるICT活用の推進	17.4	17.4	5.9	18.0	18.0	5.5
		17	体験活動を重視した学習の推進	16.7	17.3	5.9	17.7	18.6	5.7
		18	生きて働く知識・技能の習得を図る授業の工夫	18.9	17.3	5.8	18.6	18.6	5.3
		19	学校図書館を計画的に活用した授業の推進	15.7	15.9	5.5	20.7	19.8	3.1
		20	コミュニケーションを図る楽しさを大切に外国語教育の充実	15.6	19.5	5.6			
		21	自ら探究する総合的な学習の時間の充実	17.1		5.6	17.7		5.3
	【7】豊かな人間性の育成	22	生き方の自覚を深める道徳教育の推進	17.1	17.6	5.8	18.0	18.0	5.8
		23	自他の大切さを認め合える人権教育の推進	16.9	17.9	6.2	17.9	19.2	6.0
		24	温かな人間関係を築く活動の充実	17.2	17.9	6.5	18.2	18.9	6.0
		25	自然を愛し、自然を守る心を育む教育の推進	17.7	17.1	5.7	20.0	18.3	4.9
		26	地域の偉人や歴史、自然や文化に触れ、郷土について学ぶ教育活動の推進	17.1	16.2		20.4	17.3	
		27	集団や社会の一員としての自覚をもち、規範意識を高める指導の充実	18.6	17.1	5.8	18.2	18.0	5.8
	【8】健康増進・体力の向上	28	運動好きな子供を育て、体力向上を図る取組の推進	16.7	16.2	5.9	17.1	16.8	5.4
		29	基本的な生活習慣を身に付け、自分の健康を管理する能力の育成	19.1	17.3	5.3	19.8	18.6	5.0
		30	食に関心をもち、健康な生活を実現する態度の育成	19.2	16.6	5.0	19.8	17.9	5.2
	【9】自立性・社会性の育成	31	自立性や社会性を育てるキャリア教育の推進	18.6	19.2	5.5	18.3	20.5	5.0
		32	自治的な能力を高める学級活動、児童会・生徒会活動の推進	17.1	16.5	5.3	17.4	16.5	4.9
		33	自己の役割を自覚し、最後までやり抜く態度を育てる活動の推進	18.9	16.6	6.2	19.5	17.9	6.0
平均				17.0	17.1	5.7	18.0	17.9	5.3

※ 網掛 は、20以上の数値(必要性が高い)

※ **ニーズ度 = 重要度 × (8 - 実現度)** 【重要度と実現度の4段階の回答に対して「7、5、3、1」の得点を配分し、それぞれの平均値を算出し、計算式に適用する】 → **数値が高いほど、必要性が高い。**

【全体の結果】

○今年度の教職員と保護者のニーズ度の平均は、前年度と比べ、低い傾向にある。

- ・小学校教職員のニーズ度 0.1 ポイント減
- ・小学校保護者のニーズ度 0.2 ポイント減
- ・中学校教職員のニーズ度 0.3 ポイント減
- ・中学校保護者のニーズ度 0.4 ポイント減

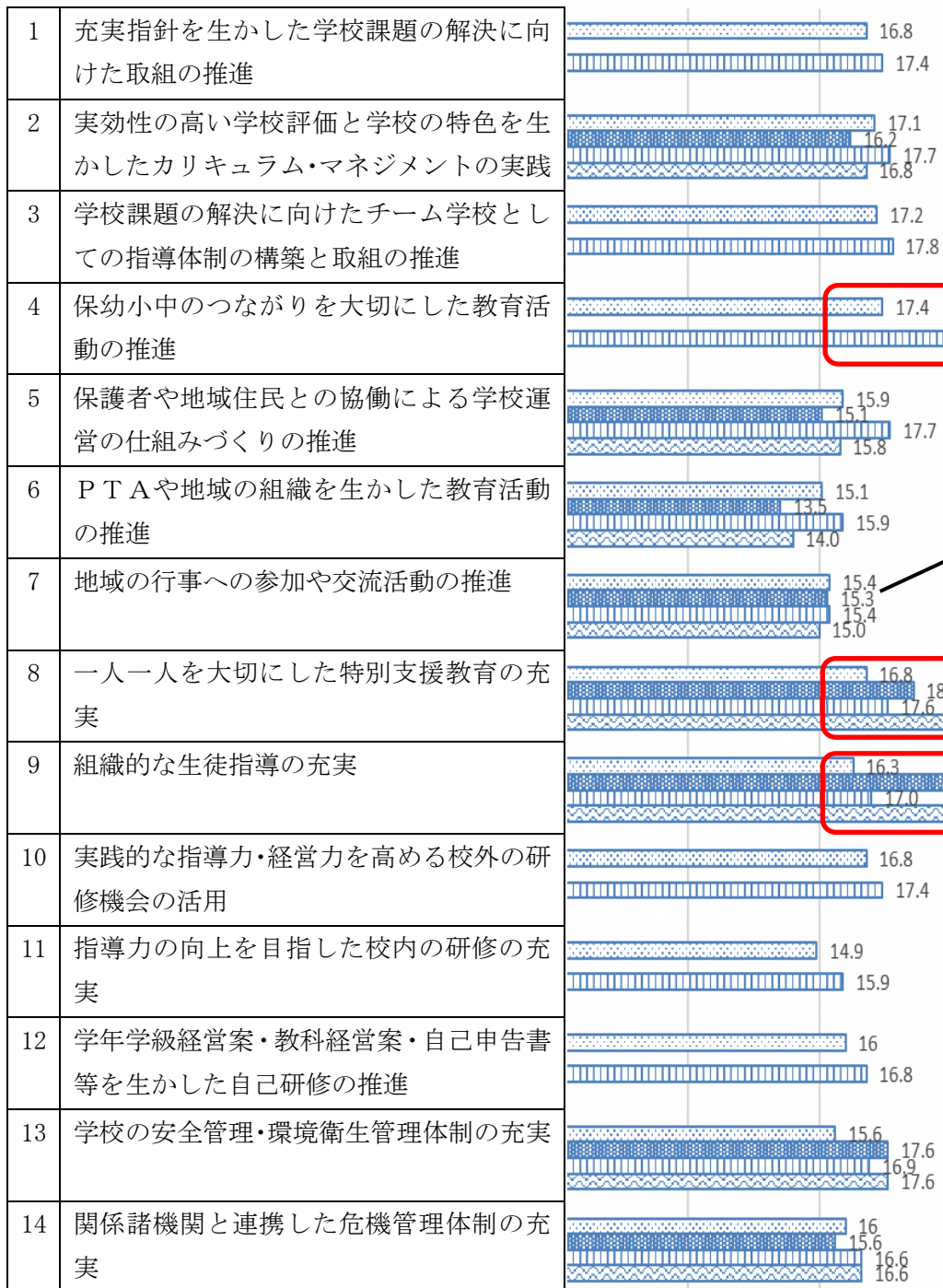
○今年度の児童生徒の実現度の平均は、前年度と比べ、同じか高い傾向にある。

- ・児童の実現度 変化なし
- ・生徒の実現度 0.1 ポイント増

【柱 1 「学校力を高める学校経営」の結果】



結果



前年度に引き続き、中学校教職員のニーズ度が高い傾向にある。

前年度に引き続き、児童生徒の実現度が低い傾向にある。
【結果一覧表参照】

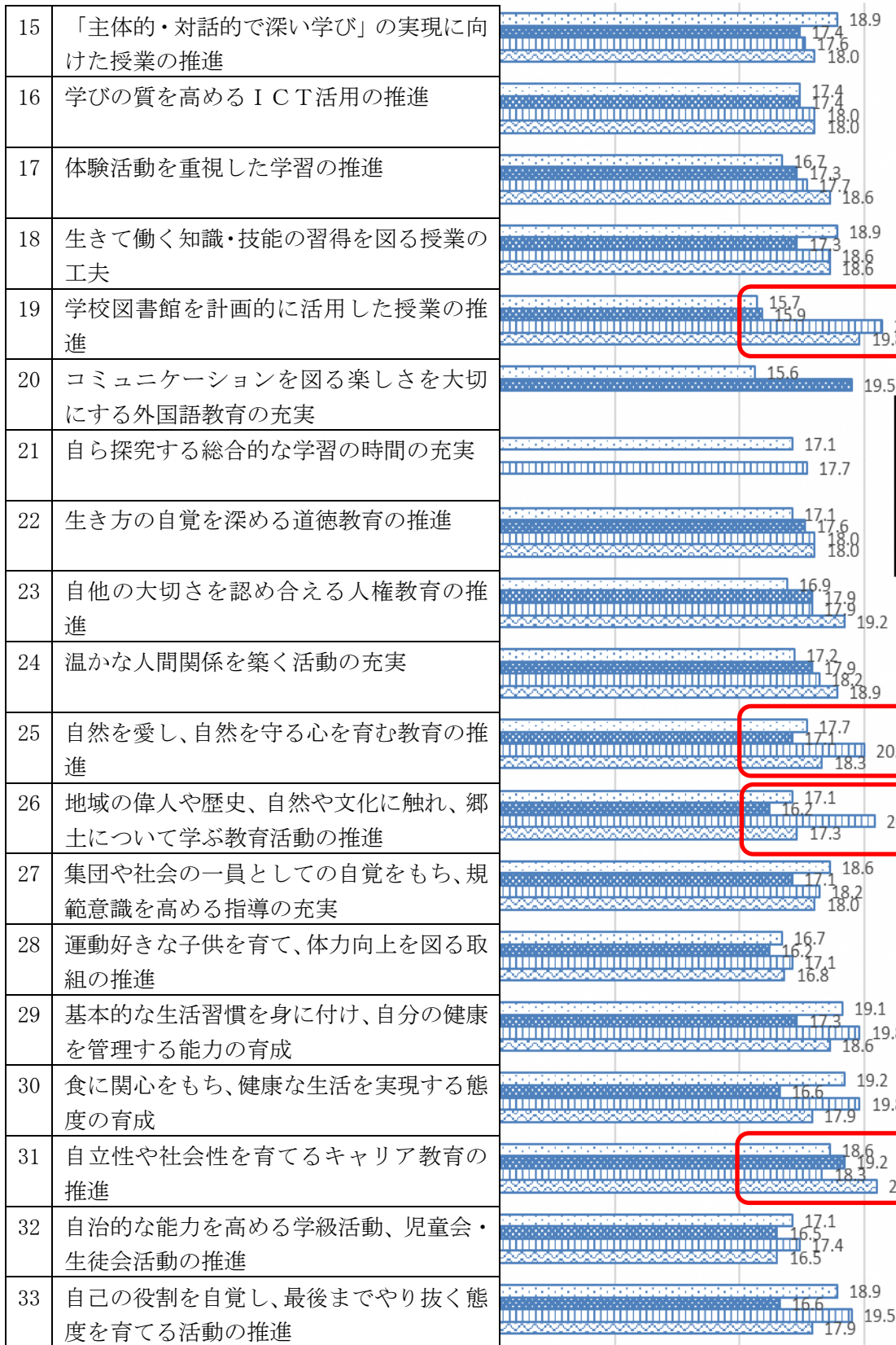
前年度に引き続き、小・中学校ともに保護者のニーズ度が教職員のニーズ度を上回っている。

前年度に引き続き、小・中学校保護者のニーズ度に関わる全ての評価項目の中で最大値である。

【柱2「魅力あふれる教育活動」の結果】



結果



前年度に引き続き、中学校教職員及び中学校保護者のニーズ度が高い傾向にある。

前年度に引き続き、生徒の実現度に関わる全ての評価項目の中で最小値である。
【結果一覧表参照】

前年度に引き続き、中学校教職員のニーズ度が高い傾向にある。

前年度に引き続き、中学校保護者のニーズ度が高い傾向にある。